

「森林地域の観光利用の変遷」(経済的サービス)

屋久島人文班 馬場 健

屋久島の観光利用の変遷を、1960年～1970年代以降を中心に把握した。

<観光を視野に入れた国立公園化の動き>

1921年(大正12)に策定された第一次施業案は、屋久杉が学術的にも、天然記念物としても価値あるものとして評価していた。1931年(昭和6)の国立公園法が制定されると、早い時期から国立公園化に向けた動きがあった。途中、第二次世界大戦による調査の中断、国立公園候補地となつてからの10ヵ年にわたる厚生省・林野庁の対立を経て国立公園となる。

- ・ 1935年 屋久島の観光資源調査のための「風景資源に関する調査費」が認められる(鹿児島県学務課観光係)
- ・ 1946年 屋久島、錦江湾国立公園化のための調査開始(鹿児島県観光課)
- ・ 1954年 厚生省・林野庁・鹿児島県による屋久島の合同調査。国立公園候補地となる。
- ・ 1964年 霧島屋久国立公園に指定にされる

<観光資本の進出と対本土交通の変遷>

屋久島における観光開発の第一歩は、島外資本の屋久島進出によるところが大きい。1960年代、カーバイト工場、研磨材工場、耐火煉瓦工場が進出し、「炭鉱・工業の島としての夜明け」とまで言われた。しかし、同時期の観光資本による自然資源に着目した開発が、現在の屋久島の観光地としての地盤を築いたといえる。

- ・ 1961年 観光資本「岩崎産業株式会社」の進出：鹿児島商船を買収し、大型観光船「屋久島丸」(1,117トン)を就航させるとともに、当時島内唯一のバス会社であった屋久島自動車有限会社を買収し、屋久島交通株式会社とした。
- ・ 1963年 屋久島空港開港：東亜国内航空がヘロン機(16人乗)を屋久島-鹿児島間に就航(一日2便)
- ・ 1967年 観光資本「屋久島パイン株式会社」が進出
- ・ 1971年 折田汽船が観光船「フェリー屋久島」(982トン)を就航
- ・ 1972年 鹿児島商船が、これまでの倍の規模の「第2屋久島丸」(2,184トン)を就航
- ・ 1974年 ホテル「パイン」営業開始
- ・ 1975年 飛行場拡張を受け、YS11機(64人乗)が就航
- ・ 1989年 鹿児島商船が高速船ジェットフォイル「トッピー」を就航

<屋久島の観光開発についての記述>

- ・ 柴立芳文(1964)『屋久杉物語』
 - 「屋久島における近年の観光も、森林開発もまた電源や、工業の開発も、すべてこの屋久杉の開発に始まっております。」
 - 「このたび「霧島屋久国立公園」として指定を受けたこの島は比類のない観光地として出発いたします」
- ・ 南日本新聞(1966年4月11日付)
 - 「登山者ツツジ林を燃やす、近く自然保護協会結成」の見出し。
 - 記事中に観光客22,000人、登山客12,000人とある。

- ・ 藤村重任（1971）『森林開発と自然保護』
 - 「原始地域として野外レクリエーション利用の可能性を持ち、将来の増大するレジャーのための野外レクリエーションの場として重要な役割をもつべき地域でもある。」
 - 「従来行なわれてきた屋久島国有林地域の野外レクリエーション利用は、おおむね次のようなものである。（一）宮之浦岳、永田岳などの山々を登山して、その特異な自然景観に接し、ヤクスギの天然林を観賞するもので、もっぱら徒歩による利用である。（二）森林軌道に便乗して小杉谷まで行き、その周辺で屋久杉林を断片的に観賞する一般観光的利用」
 - 「下屋久営林署で発案された、荒川地区における「ヤクスギ観賞」の計画は、保護とレクリエーション利用の関連において、適切な企画である」

<来島者増加および知名度向上の契機>

- ・ 第一期 大正期の国有林の開発に伴う林業従事者の移入
- ・ 第二期 1953年の屋久島電工の誘致に伴う移入
- ・ 第三期 1960年代以降の観光地として注目された時期（1974年まで増加の一途。その後横ばいが続く）
 - 1961年 全国規模のレジャーブーム（国内旅行・スポーツの流行）
 - 1964年 霧島屋久国立公園への指定
 - 1966年 縄文杉が発見される
 - 1966年以降 屋久杉保護運動の高まり
 - 1968年 第12回全日本登山大会の開催
 - 1971年 荒川屋久杉観賞林（現ヤクスギランド）、白谷雲水峡屋久杉観賞林（現白谷雲水峡）の開設→1974年に自然休養林となる
 - 1971年 国民宿舎「屋久島温泉」落成
 - 1971年 国鉄「屋久島」号（大阪－西鹿児島間）運行
 - 1972年 第27回国民体育大会の山岳競技対象地となる
 - 1974年 青少年旅行村（栗生）開設
 - 1974年 屋久島観光連絡協議会発足
- ・ 第四期 1989年 高速船トッピーの就航による観光客輸送力の増大
- ・ 第五期 1993年 世界自然遺産登録
- ・ 第六期 2000年前後 エコツーリズムの展開

<観光の変遷に関するデータ>

入り込み者数、観光客数、観光業就業者数（他業種との比較）、観光業売上（他業種との比較）、交通機関の整備（船、飛行機、レンタカー、バス）、宿泊施設数、保護地域面積（木材伐採量）、森林管理主体と職員数、遭難件数など